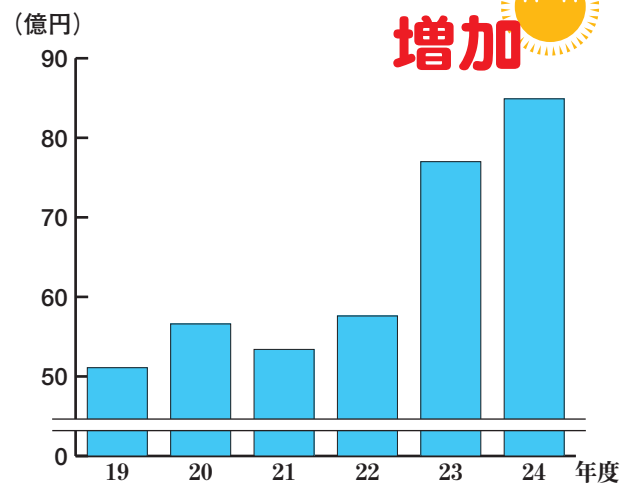


指標で見る決算

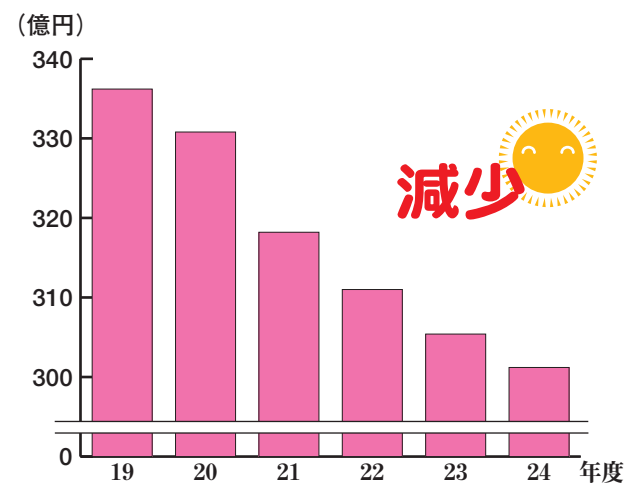
■市の貯金の残高（普通会計）

約85億円



■市の借金の残高（普通会計）

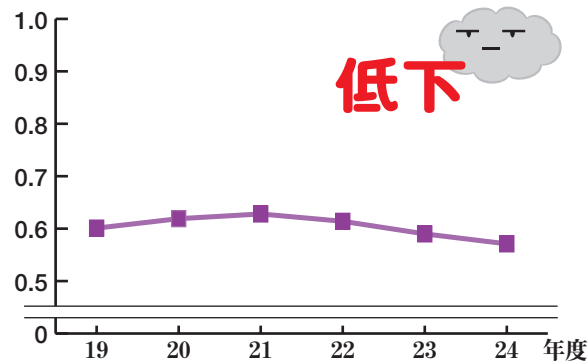
約301億円



■財政力指数

0.571

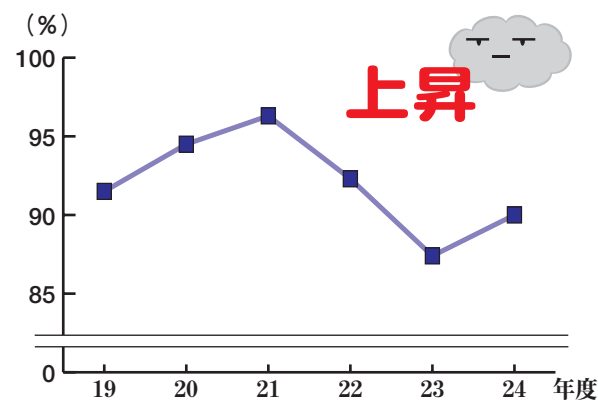
地方公共団体の財政上の豊かさを示す指数で、「1」に近く、または「1」を超えるほど財源に余裕があるものとされる。



■経常収支比率（臨時財政対策債を含む）

90.0%

人件費や公債費などの経常的な経費に、普通会計では市税や普通交付税などの経常的な一般財源がどの程度充当されているかを表す比率。比率が低いほど、財政運営の弾力性が大きいことを示す。



■実質公債費比率

14.6%

一般会計や公営企業などの公債費や公債費に準ずるものなどの総額が、一般財源に占める割合。平成23年度は16.7%。18%を超えると地方債の発行に県の許可が必要となる。

■実質赤字比率・連結実質赤字比率

該当なし

■将来負担比率

73.3%

市債の残高や数年に渡って行う事業の額に、市と総社広域環境施設組合、市土地開発公社が将来的に負担する額が、通常の行政活動を行うために必要な財源（標準財政規模）に占める割合。350%が財政の早期健全化の基準。今は大きく下回っている。

8億3998万円 黒字

平成24年度 決算

宅地化が進み、人口が増加している服部駅周辺。人に選ばれるまちづくりを進めることで、財政基盤の強化を図る

平成24年度の一般会計と特別会計、公営企業会計の決算がまとまりました。決算額や財政状態を見る指標、主要事業を紹介いたします。

一般会計と7つの特別会計、2つの公営企業会計の決算がまとまり、いずれも黒字決算となりました。

一般会計では、入ってきたお金（歳入）は、261億9552万円。平成23年度決算と比べ、基金からの繰入金が約6億5300万円増えたことなどにより、約7億6200万円増額しました。使ったお金（歳出）は平成23年度決算と比べ、約8億5800万円増額した251億6312万円。平成24年度内に完了しなかった事業の財源1億9242万円を平成25年度に繰り越し、実質8億3998万円の黒字となりました。

財政運営の健全性を測る目安としてよく取り上げられるのが、市の貯金である基金や市の借金である市債とその返済額である公債費、そして財政の弾力性を示す数値である

経常収支比率です。

基金の残高は増加、市債の残高は減少。一般会計の公債費は約30億円で、平成23年度決算と比べて約1億4000万円減りました。しかし、経常収支比率は90.0%となり、2.6ポイント悪化。市税や地方交付税などが減り、扶助費や人件費などが増えたことが要因となっています。

企業誘致の成功により、今後税収の増加が期待できるものの、地方交付税の削減が予想されるなど、先行きが不透明な状況にあります。こうしたなか、社会保障費の増加が見込まれる一方で、清音神在本線の改良事業や学校施設の耐震化工事などの社会基盤の整備を進めていく必要があります。そのため、一層の行財政改革に取り組みとともに、慎重な財政運営を行っていきます。